

平成 21 年 8 月 19 日

SAAJ NEWS RELEASE

「財務諸表の表示に関する論点の整理」について意見書を提出

(社)日本証券アナリスト協会（会長：鈴木行生 野村證券顧問）は、2009 年 7 月 10 日に公表された「財務諸表の表示に関する論点の整理」について意見書を作成し、8 月 19 日（水）に企業会計基準委員会（ASBJ）へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 我々は、国際会計基準審議会（以下 IASB）と米国財務会計基準審議会（以下 FASB）が公表した討議資料「財務諸表の表示に関する予備的見解」（以下「討議資料」）に基づく中長期的な視点から論点を整理し、寄せられた意見を参考に IASB と FASB に対して意見を発信するという「論点整理」の目的に賛同する。積極的に意見を発信する ASBJ の姿勢に敬意を払うと共に、財務諸表の代表的な利用者である証券アナリストの声を集約して意見を発信することで、我々も協力していきたいと考えている。
- ✓ **【論点 1】包括利益の表示** 我々は、包括利益を財務諸表に表示することに賛成である。純利益は企業の継続的なパフォーマンスを示す代表的な指標の一つであり、包括利益はこれに企業のリスク・プロファイルを加味したものと考えれば、二つの利益指標を同じ様に明瞭に示すことで、投資意思決定により有用な情報が提供されるであろう。
- ✓ **【論点 2】非継続事業に関連する損益の損益計算書における区分表示** 十分な議論ができなかったため、当協会としての意見を表明しない。ただし、複数の委員が、損益計算書上で非継続事業に関連する損益を区分表示することに賛成している。
- ✓ **【論点 5】損益項目の性質別表示** IAS 第 1 号では「機能別の分類を採用している場合に、売上原価のうち製造原価を材料費、労務費、間接費等に性質別に分類することは求められていない。」しかし、これらの項目の開示がない限り、固定費と変動費への区分ができなため、付加価値分析や損益分岐点分析は不可能であり、この点で現行 IAS 第 1 号の規定は不十分であると我々は考えている。我が国の連結損益計算書には売上原価の内訳が開示されていないため、単独ベースで可能な損益分岐点分析が連結ベースでは不可能なことに不満を覚える会員が多い点に、ASBJ は留意していただきたい。

【添付資料】[「財務諸表の表示に関する論点の整理」について](#)

本件に関するお問い合わせは下記まで

(社) 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 貝増 眞